

(セミナー名称)		
2019年度第4回山形県がん化学療法セミナー		
担当者氏名：富岡佳久		所属：大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野
内線： (795)6851	e-mail：	
1. 計画の名称		
2019年度第4回山形県がん化学療法セミナー		
2. 関連分野		
がん化学療法		
3. 実施報告		
<p>2019年9月1日大手門パルズにて、2019年度第4回がん化学療法セミナーを肺がんをテーマに開催した。</p> <p>特別講演Ⅰとして、山形県立新庄病院 呼吸器内科 岸 宏幸先生から「肺がんの最新治療Ⅰ～Driver Mutation～」と題してご講演頂いた。また、特別講演Ⅱでは、日本海総合病院 呼吸器内科 齋藤 弘先生から「肺がんの最新治療Ⅱ～Non-Driver Mutation～」と題してご講演頂いた。</p>		
4. 実施年月日・実施担当者・参加人数		
<p>2019年9月1日(日)</p> <p>東北大学 大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野 教授 富岡佳久</p> <p>61名が参加</p>		
5. 所要経費		
支出簿参照		
6. 成果		
<p>山形県立新庄病院 呼吸器内科 教育研修部 副部長 岸 宏幸先生から「肺がんの最新治療Ⅰ～Driver Mutation～」と題して、診断から薬物治療まで広範囲にご講演いただいた。組織診断、遺伝子診断が重要な疾患であり生検方法についてガイドラインとあわせて解説して頂いた。2002年の分子標的治療薬登場以降の Driver Mutation 症例への薬物治療の変遷や PS 不良患者への分子標的治療薬による治療選択、二次治療以降の治療選択について症例提示も含めてご講演頂いた。</p> <p>日本海総合病院 呼吸器内科 診療部長(兼)内科部長 齋藤 弘先生から「肺がんの最新治療Ⅱ～Non-Driver Mutation～」と題して、主に殺細胞抗がん薬や免疫チェックポイント阻害剤を用いた肺がん治療についてご講演頂いた。肺がん治療における化学療法レジメンの変遷について奏効率や生存率の変化を含めて解説頂いた。2009年のペメトレキセドやベバシズマブの登場により、組織型による治療効果の差や非プラチナ製剤による維持療法などについてもご説明頂いた。また、免疫チェックポイント阻害剤導入前後での肺がん治療戦略と irAE の症状注意すべき点について経験症例からご解説頂いた。</p> <p>日進月歩する肺がん治療において、本セミナーでは『Driver Mutation』という一つの判断材料をもとにそれぞれの治療方法について講師の先生に解説頂いた事で自身の中で整理する事が出来た有意義なセミナーであった。</p>		

【当日の会場の様子など、写真を添付ください】

